

**PRIMERGY スイッチブレード(10Gbps 18/8)****ご使用上の注意**

**対象装置型名: PY-SWB104, PYBSWB1040, PYBSWB1041, PYBSWB1042  
PG-SW109, PGBSW1090, PGBSW1091, PGBSW1092**

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品に添付されておりますマニュアル類の内容に訂正または追加事項がございましたので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、マニュアルをご覧になる場合に下記に示します内容を合わせてお読みくださるようお願いいたします。

2019年3月  
富士通株式会社

**1. BX900 S1 シャーシでご使用の際は、マネジメントブレードファームウェア版数を 4.31 以降で使用してください。**

本製品を PRIMERGY BX900 S1 シャーシに搭載する場合、BX900 S1 シャーシのマネジメントブレードのファームウェア版数を 4.31 以降にアップデートする必要があります。マネジメントブレードのファームウェアが古い場合はファームウェアの更新を行ってから本製品を搭載してください。

**2. 1Gbps を使用する際は、ファームウェア版数 V0200NY0039 以降を使用してください。**

本製品で 1Gbps を使用する場合は、ファームウェア版数 V0200NY0039 以降を使用してください。

**3. 1000BASE-SX SFP モジュールを使用する際に使用ポートの「Auto-negotiation」機能をオフにして使用してください。**

本製品で 1000BASE-SX SFP モジュールを使用する場合は、Auto-negotiation 機能が働いているポートへは接続しないでください。

**4. 「取扱説明書」の SFP(+)モジュールの記述について**

1Gbps のサポートに伴い、「取扱説明書」のサポートする SFP(+)の記述について、以下のように訂正いたします。

**訂正** 「1.2 名称と働き」(関連ページ: 10)

誤) 10GBASE-SR SFP+および 10GBASE-CR SFP+ケーブルを搭載できます。

正) 10GBASE-SR SFP+, 10GBASE-CR SFP+ケーブル、および 1000BASE-SX SFP, 1000BASE-T SFP を搭載できます。

**訂正** 「A.1 本体仕様」(関連ページ: 41)

誤) 8 ポート (10GBASE-SR/CR(SFP+))。

正) 8 ポート(10GBASE-SR/CR(SFP+) または 1000BASE-SX/T(SFP))。

## 5. ご使用の際のフローコントロール機能について。

本製品を古いファームウェア(V03.00NY0083 未満)でご使用の場合、Pause フレームを連続して受信した時に、受信ポート以外のポートに通信影響を及ぼす場合があるため、フローコントロールを無効にしてご使用ください。フローコントロールの設定は送信と受信があります。初期値は送信が無効、受信が有効となっています。

	Flow control 設定			
	RX(受信)		TX(送信)	
	初期値	設定変更値	初期値	設定変更値
V03.00 NY0083 未満	有効	無効	無効	無効
V03.00 NY0083 以降	有効	有効	無効	無効

設定は Interface-config モード上で以下コマンドを実行します。(初期値は flowctl off on)

```
(config-if)# flowctl off off
```

※コマンドの詳細は本製品のマニュアルを参照してください。

ファームウェア V03.00 NY0083 以降を使用している場合、上記設定変更は必要ありません。

## 6. ファームウェア版数が V0300NY0072 以降の場合の初期状態について

本製品のファームウェア版数が V0300NY0072 以降で出荷されるものに関しては、初期状態が End Host Mode となります。本製品の End Host Mode はアップリンクポートフレームの転送を行わないことで STP 等のプロトコルを用いることなくフレームのループが発生しないことを保証します。通常の L2 スイッチとして使用したい場合、本製品のコマンドライン上で "boot-system mode switch" コマンドを実行した後に再起動を行い動作モードを Switch Mode に変更してください。現在の起動モードを確認したい場合は "show system information" コマンドを実行し、「Startup-firmware」項目を確認してください。End Host Mode を使用する際には以下の点に注意してください。

- ・ STP(スパニングツリー)機能を使用できません。
- ・ コネクションブレードと ToR (Top-of-Rack) スイッチとの間で複数の接続を行う場合は、パケットの重複を防ぐためコネクションブレードと ToR スイッチの双方でリンクアグリゲーションを設定することをお勧めします。

## 7. チーミングや Bonding 等使用時の装置交換について

初期設定時の本スイッチブレードは搭載するだけでポートがリンクアップするため、チーミングや Bonding で Failback の設定にしている場合、設定や外部ポートのケーブル接続を行う前に該当ポートが Failback してしまい、通信を遮断してしまう可能性があります。本スイッチブレードを交換する際にはチーミングや Bonding の設定を自動的に Failback が行われないように設定、もしくはサーバ側でポートを無効にしてください。

## 8. LACP 使用環境での設定変更時の留意について

ファームウェア版数が V03.00 NY0086 もしくはそれ以前の場合で、かつ、LACP を使用している場合、設定変更を間隔を空けずに連続実行すると、LACP BPDU タイムアウトが発生し、LACP が瞬間的にダウンしてしまう場合があります。設定変更時は、1～3 秒程度の時間をおいて実施してください。特に、Command Line Interface(CLI) で、予め用意したコマンド群をコピー&ペーストでまとめて実行する場合は、ご注意ください。

## 9. リンクダウンリレー設定環境のスイッチ再起動時の動作について

リンクダウンリレー設定環境においてポートのリンク状態を常に同期させたい場合は、リンクダウンリレー設定を行ったインタフェース上に以下の設定がされていることを確認してください。(初期値では同設定がされています。)

```
downrelay recovery mode auto  
downrelay recovery sync enable
```

上記の設定が無効となっている場合、ポートのリンクアップからリンクダウンへの遷移のみを契機としてポートのリンクダウン状態が連携されます。そのため、リンクダウンリレー設定を行ったポートがリンクダウンした状態でスイッチを起動した場合は、リンクダウンリレー設定を行ったポートと連携ポート（ダウンリレーポート）のリンク状態は連携されません。

以上